

2010 年度 台湾数学会年会 訪問報告

小川卓克（理事・国際交流担当）

去る 2010 年 12 月 10 日 - 12 日,台湾数学会の招きで,日本数学会からの訪問団として渡台した.訪問団は坪井 俊理事長(東大・数理),都築 暢夫教授(東北大・理),張 良数学会事務長と私であった.都築氏は台湾数学会年会への招待講演者である.

台湾数学会は会員数およそ 500 名で,毎年 12 月に年会を持ち回りで開催しているとのことである.2010 年度は台中にある彰化市,彰化師範大学における開催であった.日本数学会では 2 年前の谷島理事長の時代に,台湾数学会との相互協定を結び,それぞれの数学会に講演者を含む訪問団を招待することになり,今回は日本側からの初めての招待講演者を含む訪問団であった.台湾数学会のプログラムは構成する会員の規模の違いもあり日本の学会ほど参加者は多くはなかったが,解析・代数・幾何の招待講演(E.Tadomor 氏,都築氏,Jun Kai Chen 氏)と代数・数論,幾何,偏微分方程式,離散数学,生物数理などの 10 のパラレルセッションが開催された.2 日目の午後は都築氏の招待講演が行われ main hall にすべてのセッション参加者を集め行われた.専門が異なり詳細は私の理解の及ぶところではないが,都築氏のここ 10 年来の rigid cohomology についての研究の概説がなされ,なかなか好評のようであった.

その後,各種の顕彰の発表がなされ,台湾数学会賞,学術賞,青年数学家賞の受賞式が行われた.于 靖教授,許 順吉教授,余 正道教授がそれぞれ受賞された.分野はそれぞれ数論,確率解析,代数幾何である.また優秀な博士論文に対する優秀論文賞が授与されたが,そちらには賞金が付加されていて(それぞれ 5 万 NT\$ と 3 万 NT\$),他方学会賞などには賞金が付与されていないところが日本数学会の賞とは様子が異なっている.印象的だったのは,その後の台湾数学会の報告会で,2 時間にわたり各種の報告がなされた.台湾でも若手の振興のための新しい予算がついたようで,申請資格や細かい説明がなされたようであったが,残念ながらこの部分は中国語で書かれたプロジェクターから読み取った範囲の理解に限られる.

今回の大会には韓国数学会からキム理事長とシュウ次期理事長も招待されており台湾数学会理事長の許 世壁教授(台湾清華大学)と坪井理事長の間で,東アジアにおける今後の数学交流について精力的な意見の交換がなされた.

最終日の飛行機の出発時間前に国立台湾大学に立ちよることができた。中研院数学所（アカデミア・シニカ）の劉 太平所長が出迎えてくださり、引っ越したばかりの新しい数学教室とアカデミア・シニカの建物を案内していただいた。建物は高層でそのうち数学教室と研究所で 5 階～7 階を占めており数学教室・国家理論中心（National Theoretical Research Center）とアカデミア・シニカが居を構えている。6 階から 7 階には吹き抜けの階段があり上下に容易に移動ができ、セミナー室や研究室など実に整った設備と窓からのすばらしい眺望が印象的であった。また図書室は 2 階・3 階を占めていて、年間百五十万 US ドル（日本円で約 1 億 3 千万円ほど!!）をかけているという。たいへん立派な図書室を眺めながら連続予算削減状態の我が国の状況を思うとため息が出るばかりであった。サバティカルをとってアカデミア・シニカに長期滞在し、劉教授や陳教授らと数学三昧・台湾料理三昧ができたらどんなに楽しいだろうと帰国直前のつかの間の時間を夢心地の世界に浸った。案内していただいた台湾数学会事務室の柯 琇玲嬢の笑顔がとても印象的で楽しい訪問を締めくくった。

以前、名古屋に住んでいた頃、台湾ラーメンという辛いラーメンがあり好物であったが、その頃仲間内で初めて台湾に渡った先輩から「驚くべきことに台湾には台湾ラーメンはない」ということをうかがい、その後ずっと信じていた。今回、帰国前夜、劉所長と共にした夕食会で出された麺は、なんと名古屋の台湾ラーメンによく似ていた (!!)(ただし辛くは無かったのだけれど...).